

造形遊び～のりの感触・色との出会い～

2025.7.24 実施



糊をたくさん用意し、保育士が容器に入れていると「なにしてるの～？」と覗きに来る子どもたち。糊を渡してみると、保育士の真似をして自分でボウルや容器に入れることを楽しみました。透明のような白いような、かすかに匂いもする不思議なもの、そんな眼差しで真剣に絞り出しています。



糊に食紅を入れ、ヘラで混ぜ色の変化を楽しみました。混ぜ方によって、濃い青・水色など色の違いに気づき夢中になる子どもたち。混ぜた糊を掬い上げ、まずは保育士の腕へ。ドロツとしている不思議な見た目に思わず驚いた表情をしますが、塗ることが楽しくなりどんどん大人の腕が青くなっていきます。



紙の上に糊を置いてみると、ボウルの中の色よりもさらに薄くなることを発見をした子どもたち。カラーセロハンを糊の上に置いてみると色が重なり、違う色へ！それでも混ぜる方が好きな子や画用紙に塗りたいことを好む子など、集中ポイントは一人一人違うのです。



今度は色水を用意し、糊に入れてみるとドロドロ→トロトロな感触へ変化していきました。量を調節していくと色水へ近くなります。ボウルから違う容器へ移し替えたり、赤・青・黄好みの水を入れることでまた色の変化が生まれたり、発見が止まらないのです！

「これ入れてみたらどうなるのかな」「この容器でやってみたいな」など言葉では表さなくても、好奇心や探求心が眼差しから伝わってくるほどです。素材も大事ですが、準備する容器や子どもが実際手に取るものが玩具ではなく身近に溢れている道具を使用することも、子どもの興味関心を掻き立てる材料になるのだと遊びを通して学び、子どもたちの生き生きと自分を表現できる活動を大切にし取り入れていっています。